華道相阿彌流 事務局 広報委員会
〒162-0805　東京都新宿区矢来町75-1
pr@souami.jp　／　https://souami.jp/
2025年3月10日

華道 相阿彌流
NEWS RELEASE

500年の時を超え、花が語る相阿彌眞相の精神
—華道相阿彌流が記念華展の開催概要を発表—

華道相阿彌流(かどう そうあみりゅう／本部:東京都新宿区、代表:21世家元 横地画抱／以下、「相阿彌流」)はこのたび、**開祖・相阿彌眞相**(生年不明～1525年)**の没後500年**を記念すべく、**北鎌倉・円覚寺**にて『**開祖相阿彌眞相没後500年記念華展**』を開催いたします。
なお、本華道展は、メディア・報道関係者向けに招待券を発行し、ご来場・取材を受け付けております。

開催概要

本華展の概要は、下記の通りです。

行事名称	開祖相阿彌眞相没後500年記念華展
会期	2025年4月28日(月) 10:00～16:00 4月29日(火) 10:00～15:00
開場	円覚寺 松嶺院(神奈川県鎌倉市)
アクセス	JR横須賀線「北鎌倉」駅下車 徒歩3分
入場料	無料 ※ 本華展のご観覧は無料ですが、円覚寺境内へのご入場には拝観料500円が必要となります。 ただし、当流発行の招待券ご持参で上記拝観料が無料となります。
主催	華道 相阿彌流

なお、誠に勝手ではございますが、本華展は**招待制**とさせていただきます。
お申込み等なく当日会場へお越しいただいてもご入場いただけませんので、ご注意ください。
招待券のお申込み方法およびご取材に関するご案内は、本リリース末尾に記載しております。

本華展開催の経緯

本華道展は、**開祖・相阿彌眞相**(そうあみ しんそう／生年不明～1525年)の没後**500年**を記念し、その精神と花型の継承を現代に示す貴重な機会です。

相阿彌眞相は、室町幕府の同朋衆として8代将軍**足利義政**の側近を務め、絵画・造園・建築に携わるなど幅広い芸術分野で活躍した人物です。華道においても、その思想と理念を後世に遺しており、彼の名を冠する当流・**相阿彌流**は500有余年の時を超えて今日まで受け継がれています。

本華道展は、単に華道作品を展示する場に留まらず、相阿彌流が代々継承してきた精神と花型を通じて、花のこころと古典の本質に触れる機会となります。

相阿彌流には相阿彌眞相の「**生花は花を生くるにあらず、心を生くるなり**」という言葉が伝えられています。

これは、**花を生ける行為を通じて人間性を磨くこと**を重視した相阿彌眞相の精神性を象徴するものであり、今日の当流においても厳格に重んじられる道標です。

本華展では、この相阿彌眞相の精神を体現する作品が一堂に会し、皆様に500余年の伝統とその奥深い世界観を伝えます。

華道相阿彌流について

華道相阿彌流は、室町時代に端を発し、500年以上の歴史を持つ華道の流派です。室町幕府の足利将軍家に仕えた**相阿彌眞相**の精神と花型を基盤とし、花を生けることを通じて精神の研鑽を図ることを主眼に置いています。

流派のあらましは第8代将軍・**足利義政**と相阿彌眞相の交流に端を発し、次のようなエピソードが伝わっています。

> **足利義政**が軍学の稽古のために**相阿彌**を伴って八瀬大原を訪れた際、群生する**葉蘭**（ハラン）が義政公の目に留まった。
>
> 義政公は相阿彌に「**これを生けてみよ**」と命じたが、出先であるため花器の用意もなかった相阿彌は、馬盥（ばだらい）を花器に代用し、轡（くつわ）を花留めとして葉蘭を生けた。ところが、それを見た義政公は「**まだ趣が足りぬ**」と評した。
>
> そこで相阿彌は、兵士たちの演習風景を見て着想を得、彼らの陣形をヒントに葉蘭を再構成することにした。そして**隊列の入り乱れる様を葉蘭によって表現**してみせたところ、これを称賛した義政公は**相阿彌に教えを後世に伝えるよう勧めた。**

足利義政公とのこのやり取りが**相阿彌流のはじまり**だと伝えられており、このときの葉蘭のいけ方が、現在にまで当流に伝わる「**魚鱗鶴翼（ぎょりんかくよく）の花型**」の由来とされています。

葉蘭の作品例（家元・横地画抱）葉によって様が魚鱗の陣・鶴翼の陣の入り乱れる様を表現する無二の造形技法を誇る

相阿彌流の花型が持つ特徴は、水平・垂直方向に加えて、前後の遠近・重なりを厳格に活用した**立体的な構成**にあります。

一般にいけばなは正面からの見栄えを重視するため、特に水平・垂直方向の平面的な造形に注力します。他方、相阿彌流は空間の奥行きも重視することで、**作品全体に植物が持つ生命の躍動を宿らせる**のです。

この造形理念によって、相阿彌流の花は**独特の躍動感や力強さ**を備えることとなります。ときに荒々しささえ感じさせるこの**動的な造形法**は、軍学の演習風景に着想を得たとされる当流のルーツが今なお息づいている証左でもあるでしょう。

また、相阿彌流の華道は技巧に依存しない素朴で率直な表現を重視します。植物本来の生命力を尊重し、最小限の手入れで最大限の美を引き出すことを目指すこの精神は、書画や造庭にもうかがえる**相阿彌の美意識**とも深く通じており、500余年を経た現代においてもなお、観る者に新鮮な感動を与えてくれるのです。

会場・円覚寺（えんがくじ）について

円覚寺 総門〔写真：PIXTA〕

円覚寺は、鎌倉時代末期の**1282年**に鎌倉幕府第8代執権・**北条時宗**によって創建された臨済宗の名刹であり、以後鎌倉時代を通じて幕府に保護されてきました。

5つの禅寺から成る「**鎌倉五山**」の1つに数えられ、その第2位に位置付けられる由緒ある寺院です。

円覚寺は単に**北条氏（鎌倉将軍家）**ゆかりの寺院というだけでなく、**室町幕府**の庇護を受け、**足利氏（室町幕府将軍家）**との関係も深い寺院でした。ここに、相阿彌流がこのたび『**開祖相阿彌眞相没後500年記念華展**』開催の地とした由縁があります。

■鎌倉五山・禅寺と足利将軍家

鎌倉時代と室町時代の間には**後醍醐天皇**が直接政治を執り行おうとする「**建武の新政**」と呼ばれる期間（1333年～1336年）があり、このときに「**五山**」が制定されました。その後政権を握った**室町幕府初代将軍・足利尊氏**は、朝廷から五山の選定を一任されると**円覚寺**を五山の1つに選びます。尊氏ののち、**3代将軍・足利義満**は五山を**京都五山**と**鎌倉五山**とに分けて定め、その第2位として**円覚寺**を厚く保護し、禅宗の広まりを支援しました。

やがて8**代将軍・足利義政**の時代になると、祖父・義満と同様に義政も**五山の僧**たちと積極的に交流をもち、これが彼が芸術に対する造詣を深める機会となりました。当時は「**五山文学**」という、**京都五山・鎌倉五山の禅僧たちによる著述活動**が盛んな時期でもあり、このときの禅僧たちとの交流を通して、義政は美術のみならず文学に対する見識も高めていったのです。義政自身が鎌倉の地へ赴くことはなかったものの、彼は**禅寺の保護**に関しては最後まで政務を手放そうとせず、非常に熱心であったと言えるでしょう。

■東山文化と禅僧

義政が受け継いだ足利将軍家の財産には、**尊氏以来の歴代将軍による蒐集品・献上品**など数多の**名宝**が含まれていました。

芸術文化に強い志向性を持っていた義政は、彼に仕える同朋衆である**唐物奉行（からものぶぎょう）**の**能阿彌・芸阿彌**親子にその鑑定や選別を依頼し、この事業は芸阿彌の子**相阿彌眞相**の代に完成を見ます。これらの名宝は「**東山御物**」として、現存するものの多くが国宝や重要文化財に指定されています。

こうした義政の治世・生涯の過程で形成された諸芸術の文化は「**東山文化**」と呼ばれ、**武家文化・公家文化**に加え**禅僧の文化**が融合したものでした。

「**幽玄**」「**わび・さび**」といった美意識に象徴されるこの文化は、**今日まで続く日本文化的な精神・様式の萌芽**でした。このときに**茶道・華道・香道**などといった**芸道**や**工芸**も大きく発展し、**相阿彌眞相**もその担い手の1人だったのです。

■夢窓国師と鎌倉・室町・足利氏

さて、義政の足跡として最も有名なものと言えば、「**銀閣**」（慈照寺銀閣）でしょう。これはもともと彼の山荘として建設が進められていたもので、義政の没後に完成したものです。

銀閣（慈照寺観音殿）〔写真：PIXTA〕

完成後は義政自身の遺命によって禅寺に改められ、このとき勧請開山とされた

のが**夢窓国師（夢窓疎石）**。禅の修行を積む過程で**鎌倉**へ赴きの五山うち**建長寺・円覚寺**の僧より教えを受け、また同地では**瑞泉寺**（現在は臨済宗円覚寺派の寺院）を開山するなど、**鎌倉の地や北条氏、そして円覚寺と非常に縁の深い高僧**です。

彼は**後醍醐天皇**にとり立てられ、このとき後の室町幕府初代将軍・**足利尊氏**と出会って師と仰がれました。さらに、京都五山第2位・臨済宗相国寺派の大本山である**相国寺**を**足利義満**が創建する折、尊敬する師である禅僧・**春屋妙葩**に開山となることを求めるも妙葩は固辞し、彼の師である**夢窓国師を開山とし自身は2世住職となること**を条件としたため、**夢窓国師は相国寺の開山ともされている**のです。

このように、夢窓国師は生前・没後を問わず足利将軍家とも強い縁で結ばれていました。

慈照寺は相国寺の末寺に位置付けられるため、ここもまた相国寺の開山である夢窓国師を開山としています。同時に、義政は山荘（現在の慈照寺）の庭園を造るにあたって夢窓国師の手がけた京都・**西芳寺**の庭園を非常に強く参考にしたとされていたことから、義政もまた夢窓国師に対して何らかの思い入れがあったと考えることができるでしょう。

■夢窓国師と相阿彌流

夢窓国師は、**足利氏の菩提寺**である京都・**等持院**の開山でもあります。

等持院 心字池〔写真：PIXTA〕

初代将軍・足利尊氏の墓所でもあるこの寺院には、京都市指定名勝にもなっている庭園「**心字池**」があり、これも夢窓疎石の作と伝えられています。

「**足利家に縁の深い、造庭する禅僧**」という夢窓国師の人物像は、相阿彌流の開祖・**相阿彌眞相**によく通ずるものがあります。それだけでなく、夢窓国師と縁のあるこの**等持院**は、**相阿彌流と非常に深い関連性を持つ場所**でもあります。

相阿彌流は、創始以来長らくこの**等持院**を本拠地としていました。当初は世襲制をとっていなかった**相阿彌流の歴代家元**には、**僧侶**が最も多くおり、代々等持院を拠点に活動していたと伝えられています。**華道相阿彌流の歴史**は、言うならば、当時五山派の最大派閥でもあった**夢窓国師の系譜**のなかに深く組み込まれていたのです。

このようにして今日、足利将軍家に縁を持つ**相阿彌流**は、**足利氏・夢窓国師**を介して、**鎌倉五山・円覚寺**に強いつながりを見出しました。特に**円覚寺**は**足利尊氏筆の法華経**（焼失）や**足利義満筆の額字**（現存・重要文化財）を蔵しており、足利将軍家との直接的な縁も深い寺院です。

相阿彌流は、明治中期より本拠地を**東京**に移しています。その当流が、花の御所より遠く関東の地で**開祖・相阿彌眞相の儀軌と精神**を記念しようとするにあたり、北鎌倉の禅寺・**円覚寺**ほどふさわしい地はないと言えるでしょう。

相阿彌流21世家元・横地画抱が抱いたこの想いに円覚寺が応えてくださり、当地での『**開祖相阿彌眞相没後500年記念華展**』開催が決定しました。

円覚寺 松嶺院〔写真：PIXTA〕

今回の会場となる**松嶺院**（しょうれいいん）は、円覚寺の塔頭（たっちゅう）のひとつであり、特に静謐な空間を持つ場所です。禅の精神と鎌倉・室町時代の息吹を体感できるこの地で本華展を開催できることを、流派一門たいへん喜ばしく感じています。

ご来場・取材のご案内

開祖**相阿彌眞相没後500年記念華展**は、招待制となっております。
メディア・報道関係者の皆さまには、**事前のお申込み**をいただければ**当流より招待券を送付**いたします。ご観覧後に記事化・掲載をご検討いただくかたちでも結構ですので、お気軽にお申込みください。

また、**相阿彌流21世家元・横地画抱**や流派関係者・出瓶者への**インタビュー取材**をご希望の媒体様に関しましても、事前にご連絡をいただければお受けすることが可能です（複数社様よりご希望があった場合には、当流にて日時の調整をさせていただきます）。

インタビューの有無にかかわらず、**ご来場を希望されるメディア・報道関係者様は下記のフォームよりお申込みください（受付期限：2025年4月20日）**。

■報道関係者様用お申込みフォーム
https://forms.gle/pdTHgAdwwyyrZXXj7

皆さまのご来場・ご取材を心よりお待ち申し上げております。

【FAQ】よくあるご質問

本**華展**とその取材に関して関するよくあるご質問とその答えをまとめます。

■相阿彌眞相や華道相阿彌流をめぐる史料の展示はありますか？

基本的に、**『開祖相阿彌眞相没後500年記念華展』**の展示物は**華道作品（いけばな）のみ**となります。

皆さまにおかれましては、花を通じてその根底にある相阿彌の息遣いをお感じいただくことを願い、流派一門、一意専心花をいけることに全霊を注ぐ所存です。

■カメラマンは同行できますか？

明確に禁止とはしておりません。ただし、会場レイアウト上大型機材の使用に不向きなケースも想定されますので、**作品・会場等を損壊することがないようご注意ください。**

なお、本華展にご来場いただいたメディア関係者の皆さまには、**会期終了後にプレスキットとして当流手配のカメラマンが開場前に撮影した写真素材を提供することを予定**しております。

■記事化にあたり名称等の表記レギュレーション等はありますか？

例として、当流や本華展の名称等を**新字体で表記していただくことも可能**です（「彌」→「弥」／「眞」→「真」）。

原則としては旧字体での表記を希望しておりますが、貴媒体のレギュレーションや使用フォントに合わせて適宜ご選択ください。

- **当流の名称について可能な表記**
  華道相阿彌流、華道相阿弥流、
  相阿彌流、相阿弥流
- **相阿彌眞相について可能な表記**
  相阿彌眞相、相阿弥真相、
  相阿彌、相阿弥

本件に関するお問い合わせ先

華道相阿彌流および**『開祖相阿彌眞相没後500年記念華展』**に関するお問い合わせは、下記の連絡先までご連絡ください（一般のお問い合わせ・取材のお問い合わせ共通）。

お問い合わせ先	華道相阿彌流事務局 広報委員会
担当者	毘斎庵　新谷 一景
E-mail	pr@souami.jp